

映画「男はつらいよ」40周年を記念して、「男はつらいよ」オリジナルテレビ版がついに初DVD化。寅さんの原点がここにある。

昭和43年より全26回にわたって放送されたテレビドラマ「男はつらいよ」。奇跡的にマスターテープの残っていた初回と最終回を完全収録。途中24話も残されていた写真で再現する。また映画化以前、企画の誕生から成立まで、柴又が舞台に決まるまでの秘話、テーマソングの由来、衣装が決まるまでの話等が、当時を知るスタッフにより明かされる。「男はつらいよ」の原点がここにある。

ストーリー

第一話

車寅次郎（渥美清）は、家出して以来、約18年ぶりに故郷柴又に帰ってくる。そこで、おいちゃん（森川信）、おばちゃん（杉山とく子）、そしてたった1人血の繋がった妹さくら（長山藍子）と感動の再会を果たす。しかし、久々の再会を喜ぶ寅次郎とは裏腹に、お調子者の兄に戸惑うさくら。結局酒の入った寅次郎を捲し立て、家を追い出してしまう。翌日、家に帰ってくるが、家族に別れの言葉を告げて再び旅立つ寅次郎。その足で幼い頃の恩師・坪内散歩（東野英治郎）を訪ね、坪内の娘で幼馴染みの冬子（佐藤オリエ）に恋をしてしまうのであった。

最終話

冬子（佐藤オリエ）に恋人がいることを知り、死んだ坪内先生の墓に話しかける寅次郎（渥美清）。旅立つ決心をしてこう言う。「先生、男はつらいよ。」そのまま誰にも告げずにそっととら屋を後にする。

3ヶ月後、さくら（長山藍子）とおばちゃん（杉山とく子）がさくらの家で寅次郎の噂をしていると、寅次郎の種違いの弟・雄二郎（佐藤蛾次郎）が神妙な面持ちで訪ねてきた。雄二郎は2人に、寅次郎と一緒にハブ獲りに奄美大島へ行ったことを話しはじめる。

映像特典

- ・インタビュー：山田洋次（原案・脚本）、関敬六、谷幹一、星野哲郎（作詞家）他
- ・最終話までのあらすじ紹介（写真構成）

スタッフ

原案・脚本：山田洋次 監督：小林俊一 音楽：山本直純 ナレーション：露木 茂 製作協力：彩の会

キャスト

渥美清／長山藍子／佐藤オリエ／杉山とく子／井川比佐志／津坂匡章／東野英治郎／佐藤蛾次郎／森川信 ほか

2008年8月27日リリース

発売元：フジテレビ映像企画部

販売元：松竹株式会社 映像商品部

【尺数】本編約77分＋特典映像 【放映】1968年10月～1969年3月 【製作年度】1968・1969年

【製作国】日本 【ジャンル】テレビシリーズ・ホームドラマ

【音声】ドルビーデジタル・日本語（オリジナル）モノラル

【画面サイズ】4:3／スタンダードサイズ 【カラー／モノクロ】モノクロ（一部カラー）

【層】片面1層